

(二) 実施概要

調査年月日	調査船名	測点数	欠測点数	調査員氏名	
47- 8.10	函南丸	10	なし	友利、金城	沖縄南部海域、
47- 8.29 ~ 9. 2	くろしお	18	〃	久貝、金城、友利	〃 . 金武湾
47- 9.19	くろしお	10	〃	喜屋武	〃 .
47- 9.28 ~ 9.29	函南丸	10	〃	金城、友利	〃 .
47-10.16 ~ 10.18	くろしお	18	〃	久貝	. 金武湾
47-12. 1 ~ 12. 2	函南丸	10	〃	友利、上原	沖縄南部海域、
47-12. 7	くろしお	8	〃	金城	. 金武湾
48- 1.25 ~ 1.26	函南丸	10	〃	金城	沖縄南部海域、
48- 2.15 ~ 2.16	〃	10	〃	川崎、喜屋武	〃 .
48- 3.29 ~ 3.30	〃	18	〃	友利	〃 . 金武湾

(4) 観測機器

風向風速計ペーン式

転倒水温計防圧4本被圧2本

自記海水温度計

転倒採水器4本

サリノメーター(T.S製)

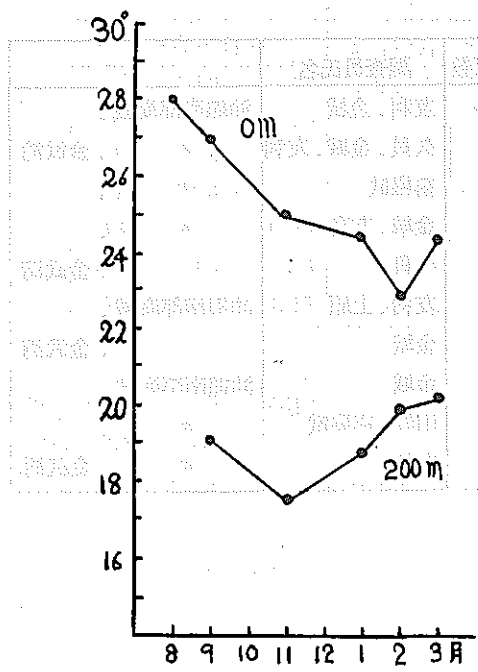
(5) 標本船調査

カツオ釣魚船3隻

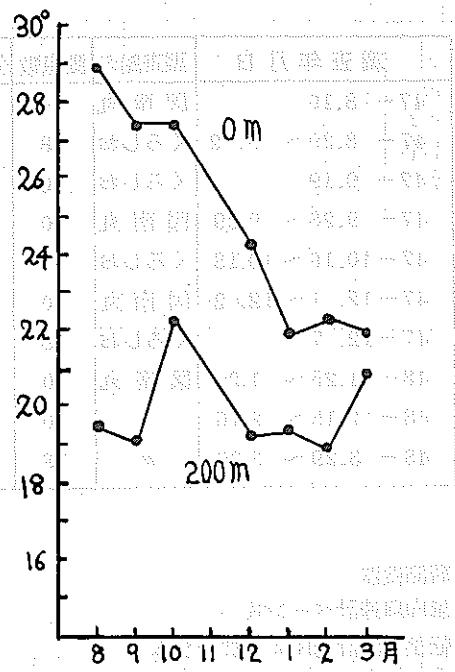
2 調査研究結果(昭和47年8月~昭和48年3月)

(I) 海況の推移

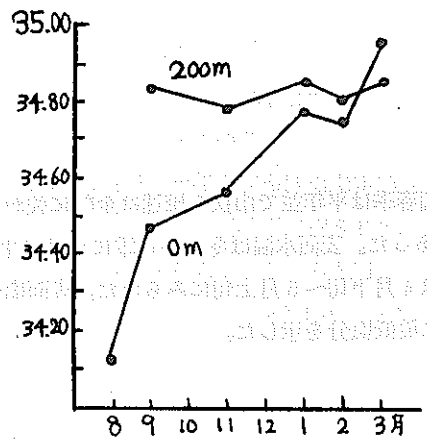
- 1) 沖縄周辺海域における黒潮流路は冬季やや東偏春季は平年並で巾狭く流速は全般に強かった。夏季は沖縄NW距岸100渚にあり例年と同じであった。表面水温は冬季~夏季にかけて平年比低目に、秋季以降高目に経過した。水温上昇期は4月下旬~5月上旬にみられた。表面塩分は冬季平年比低塩分に経過した。夏季は9月下旬に最低塩分を示した。



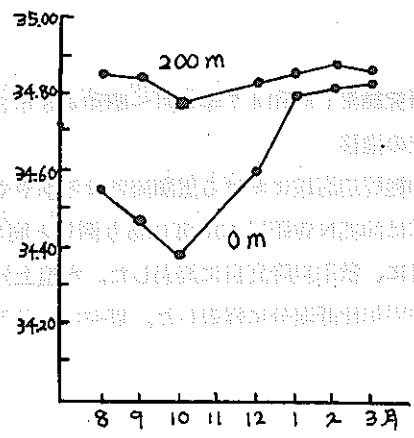
沖合 ST10 (26°-32'N 126°-05'E) の水温変化
図 2-1



沿岸 ST7 (26°-06.5'N 128°-05'E) の水温変化
図 2-2



沖合 ST10 (26°-32'N 126°-05'E) の塩分変化 図 2-3



沿岸 ST7 (26°-06.5'N 128°-05'E) の塩分変化 図 2-4

図 2 水温・塩分の季節変化 昭47年8月～昭48年3月

ロ) 各層の季節変化(図2)をみると黒潮流域(ST10)では表層は夏季高温低カン、冬季低温高カンである。秋季の急激な降温は11月にみられた。中層の水温は11月に最低温で3月に最高温を示した。中層の塩分は34.8%前後ではほぼ一定である。沖縄東側沿岸(ST7)では黒潮流域と同様な季節変化の傾向を示した。中層水温は10月に高温8月に低温を示した。中層塩分は34.8%台ではほぼ一定している。

ハ) 黒潮流軸の位置、流向を200m層16.5℃等温線を指標に求めると観測月により若干変動がみられる。伊江島沖ではNW86~103 裡にあり変動巾は5~17 裡であった。同様に久米島沖ではNW55~70 裡にあり変動巾は5~18 裡であった。流向の出現頻度はNE方向3回NNE方向1回であった。

(担当 友利)